

中央区ボランティアの活躍

地域福祉課長 今村俊夫

今回の震災でボランティアの果たした役割は、はかりしれないものがある。個人・団体を問わず全国から駆けつけたボランティアは、被災者に励ましと希望を与えてくれた。その活動主体も自治会・婦人会・PTAをはじめ学生・企業・宗教団体など広範にわたり、また活動内容も避難所の運営、物資の運搬、炊き出し、高齢者や障害者の介護・はげまし、さらに理容や美容サービスなど実に多岐にわたった。ここでは、組織や団体に属していない個人のボランティアが中央区役所に集まり、そこを拠点に活躍した「中央区ボランティア」についてその活動実績にふれてみたい。

1月17日、午後2時過ぎ、市役所本部よ

り「ボランティアをしたい人がいるが中央区役所に行ってもらってよいか。」という電話を受けた。今後の状況を考えると人手はいくらあっても足りないと思われ、「是非来て欲しい。」と返答する。しばらくして一人の青年が区に到着したが、彼には、「今は、まだどうこうしてほしいと言ったことができないので、とにかく自分で判断し、動いてほしい。」とお願いした。

中央区ボランティアの第1号であった。

その後、「何か自分にできることはないか」という思いにかられた人々が次々に中央区役所に集まってきた。当初は通りがかった人も含めて地元の人々が大半を占め年齢層



ボランティア受付（中央区役所1階）

も幅広かった。この時期の活動は職員とともに救援物資の搬入・搬出作業が中心であり、当時、まだ出勤できた職員が少数であったことから、このボランティアの協力は実にありがたかった。もし、こうしたボランティアの協力がなければ、90か所以上の避難所に約4万人分の食料等の物資を毎日搬送することはとてもできなかったに違いない。

1週間を過ぎた頃より、全国各地から泊まりがけの学生ボランティアが増え、ボランティアの中からも組織だった活動の必要性が意識されはじめた。島原や奥尻島でもボランティアの経験がある若い学生が中心になり、1月28日はじめてボランティア全員によるミーティングがもたれた。そこで、区本部に、組織としての「中央区ボランティア」が形成された。そしてこれからどのような活動をしていくのかが話し合わせ、リーダーを通して各種の要請を行うことが可能になり、ボランティアとの連携がよりスムーズに運ぶようになった。

活動内容としては、救援物資の搬入・搬出、避難所への常駐ボランティアの派遣、避難所への巡回、炊き出し、ミニコミ紙の発行および配布、各種ボランティア希望者（理容師・マッサージ師・イベント関連など）の斡旋、屋根のシート張りや家屋の小修繕、お年寄りを対象とした仮設住宅への引っ越し、お年寄り・子供たちの心のケア（ハートほぐし隊・遊び隊）、街の清掃活動など実に多種多様なものとなった。

中央区では、震災直後より、本庁各局からの応援職員が少なかったこともあって、他都市からの応援職員が派遣される4月まで各避難所に常駐の職員を派遣することができず、また職員による定期的な巡回も行っていなかった。こうした状況下で「中央区ボ

ランティア」が各避難所からの要請により常駐のボランティアを派遣した。また、区内の全避難所を隔日で巡回を行った。特に巡回にあたっては、自分たちのつくったミニコミ紙、市の震災対策広報を配布するとともに、物資の要望や行政に対する質問・要望を区に持ちかえるなど、結果として避難所と区（行政）をつなぐ重要なパイプ役としての機能を果たし、また、このようなボランティアの活動が行政の救援活動を補完したと言えよう。

ここで、特筆すべきことは、このようなボランティアの活動が、区からの要請や職員のコーディネートによって行われたものではなかったという点である。すべて、ボランティアがミーティングを重ねながら、今、自分達は何をなしうるかを考え、自発的・積極的に行動した結果である。それにしても、何らつながりもなかった者どうしが、しかも滞在期間もまちまちでありながら、見事に組織化された集団として有効に機能したことは、我々にとって“奇跡的”とも思えることであった。

このように中央区の場合、ボランティア活動が行政との協力・連携のもとに行われ、その結果相互の信頼関係が構築できたことは誠に幸運であった。これには、次の点が幸いしたと言えよう。

まず第1に、ボランティアに宿泊場所と食事を提供したこと。これによって、学生を中心とする長期滞在者のボランティアの受け入れが可能になった。なお、宿泊に関しては、ボランティアの人数も増えた3月、隣接の図書館や8階の神戸勤労福祉振興財団の協力をいただいた。

第2に、区役所庁舎内にボランティアルームを確保できたこと。これにより、ボランティアも各種情報の入手が可能となり、

また行政との連携が確保できた。

第3にボランティアルームにファクシミリ・携帯電話・複写機などを提供したことにより、活動の幅を広げることができた

第4に、これが一番重要なことと考えられるが、組織のリーダーに数人のしかも非常に有能な人材を得ることができたこと。しかも彼らが長期に滞在してくれたこと、などをあげることができる。

なお、中央区におけるボランティアは、そのほとんどが個人単位で参加し、かつその多くがボランティア初体験者であった。従

事した人数をみると1月28・29日の週末に新規登録者が150～170名にのぼり、2月中旬の週末には、区役所での宿泊者が150名以上、避難所での宿泊者も100名前後を数え、1日の活動人員が300名以上に達するなどピークをむかえた。5月までの登録者の合計は、約4,000名にものぼり、ボランティア1人1人が、それぞれの役割を果たしてくださった。

最後に、この場をかりて震災後の混乱の中、十二分に活躍して下さったボランティアのみなさんに心よりお礼を申しあげたい。



荷降ろし作業（湊小学校）